

## 第8回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会 議事概要

### 1 開催日時

令和8年3月6日（金） 13時30分～16時30分

### 2 会場

ステーションコンファレンス万世橋

### 3 出席委員

稲葉委員長、水ノ江委員、根岸委員、石崎委員、森委員

### 4 出席者

文化庁文化資源活用課 鈴木調査官

縄文遺跡群世界遺産協議会広域委員・管理委員

### 5 概要

事務局から、本日の議事公開範囲について「報告事項（1）縄文遺跡群の来訪者数の動向について」のみを公開とし、以降は非公開とする旨、説明を行った。また、会議終了後には稲葉委員長による囲み取材が予定されていることについて説明を行った。

#### （1）縄文遺跡群の来訪者数の動向について 【資料1】

事務局から、令和7年度（4月から12月まで）の来訪者数推移について説明を行った。

##### ○来訪者数の全体傾向

令和3年度の世界遺産登録以降、来訪者は増加したものの、令和6年度からは減少傾向が続いており、令和7年度もその傾向に変化は見られない。縄文遺跡群全体における各構成資産の割合では、依然として三内丸山遺跡が突出しており、全体の増減は三内丸山の動向に依存している。

##### ○個別遺跡の状況

大部分の遺跡で減少、あるいは横ばいとなっている中、北海道のキウス周提墓群については、令和7年4月にガイダンス施設がオープンした効果により、来訪者数が増加している。

#### 【主な質疑・意見】

##### ○（稲葉委員長）

- ・（「北海道・北東北の縄文遺跡群」）の世界遺産の場合、構成資産が多いので、周遊させることが大事である。
- ・個々の遺跡がどうやって（来訪者を）増やすかを考える必要もある。

- （水ノ江委員）
    - ・発掘調査を行い、その最新の成果を展示や特別展などで発信していくことが必要である。新たな展開の一つのツールとして各自治体の検討課題とすべきである。
    - ・遺跡とガイダンス施設を一体的に整備する等、遺跡に付加価値をつけることも効果的である。
  - （鈴木調査官）
    - ・（来訪者数に一喜一憂するのではなく）再訪がどれくらいあったのか、来た人がどれくらい満足したのか、滞在時間がどれくらい伸びたのか、どれくらい地域にお金を落としていったか、指標とはたくさんあると思う。数だけが一人歩きするのは縄文の遺跡群にとって望ましい来訪の在り方なのか疑問である。
  - （森委員）
    - ・3年前くらいに世界遺産センターの話があったがどうなっているのか。
    - ・広域的な情報発信の拠点となる「世界遺産センター」が主体となって進める必要があると考える。
- 【事務局】
- 世界遺産センターのあり方については、4道県でなかなか合意形成が諮られていない状況であり、まだ特に決まっていない。
- （稲葉委員長）
    - ・日本だけではなく、世界中で世界遺産になったところは世界遺産センターをつくるという方針は広まっている。
    - ・世界遺産センターを設置するという方針は決定しているが、どのような形でというのは決定していないと理解している。
    - ・4道県にそれぞれ一個あればいいのか。観光も含むビジターセンターのように、観光・教育普及を兼ねたセンターであれば、例えば駅の近くであるとか、来訪者のための場所であるというのがいいかと思う。
    - ・数を増やすことだけではなくて、インタープリテーションの質を上げるということについて個別の遺跡でも全体を総合しても考える必要がある。
  - （鈴木調査官）
    - ・来訪者減少の歯止めをかけるための検討では、富士山のように望ましい来訪の在り方を別機会を設けて検討しているところもある。

## （2）令和7年度 来訪者動向調査結果について 【資料2】

※以降、非公開